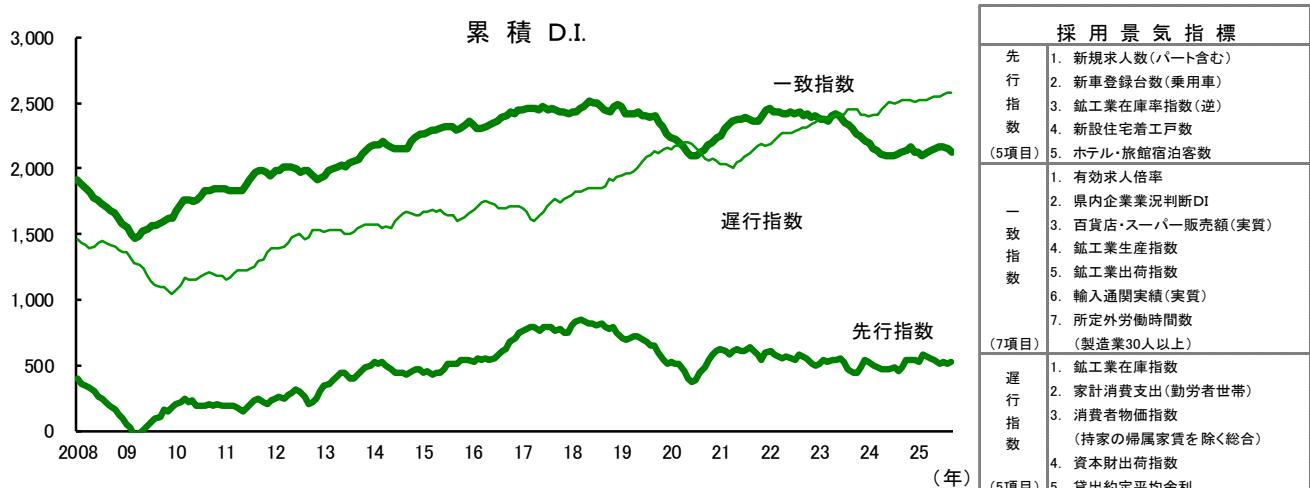


1. 景気動向指数

2025年9月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、県内企業業況判断DI、百貨店・スーパー販売額(実質)、鉱工業生産指数、所定外労働時間数(製造業30人以上)の5項目がマイナスとなり、全体で28.6%と2カ月連続で50.0%を下回った(7項目のうちマイナス5)。

先行指数は、新規求人人数(パート含む)、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数の3項目がプラスとなり、全体では60.0%と2カ月ぶりに50.0%を上回った(5項目のうちプラス3)。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、貸出約定平均金利の2項目がプラスとなり、全体では50.0%と5カ月連続で50.0%を上回った後、保合となった(5項目のうちプラス2、マイナス2、保合1)。



注)今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)

一致指數には1,000、遅行指數には600、先行指數には500をそれぞれ加算してある。

資料)宮崎県総合政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を3カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の3つがある。一致指數が数カ月連続して50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指數=(プラス項目数+横ばい項目数×0.5)÷(プラス項目数+横ばい項目数+マイナス項目数)×100(%)

2. 鉱工業生産

9月の鉱工業生産指數は、85.1で前年同月比1.6%増と前年を上回った。

主要業種別にみると、食料品は前年と同水準だったが、電子部品・デバイス(同49.7%増)、化学(同4.7%増)、繊維(同3.3%増)が前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

11月の公共工事請負金額は、98億97百万円で前年同月比29.5%減と6カ月ぶりに前年を下回った。

発注者別にみると、国が同92.5%減、県が同14.7%増、市町村が同87.9%増、その他(独立行政法人等)が同82.7%減となった。

② 着工建築物

10月の着工建築物は、棟数は395棟で前年同月比10.6%減、床面積は6万2,603m²で同7.9%減となつた。

内訳をみると、居住用は棟数が同19.3%減、床面積が同19.1%減となり、非居住用は棟数が同19.0%増、床面積が同11.5%増となつた。

③ 住宅着工

10月の新設住宅着工戸数は、貸家は前年を上回ったものの、持家、分譲は前年を下回った。県内合計は439戸で前年同月比6.8%減と2カ月ぶりに前年を下回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

10月の百貨店・スーパー販売額は、59億7,500万円で前年同月比0.2%増とほぼ前年並みだった。商品別では、衣料品は8億1,300万円で同9.0%減、飲食料品は34億7,600万円で同2.8%増、その他計は16億8,600万円で前年と同水準となった。

② 乗用車新車販売動向

9月の乗用車新車登録台数は、1,619台で前年同月比11.0%減となった。

車種別にみると、普通車は1,095台で同6.0%減、小型車は524台で同19.9%減となった。

5. 消費者物価指数

10月の宮崎市の消費者物価指数は、114.1で前年同月比3.5%増だった。

6. 企業倒産

11月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は3件（前年同月1件）で、2カ月ぶりに前年を上回った。負債総額は5億1,400万円（同2,100万円）で3カ月連続で前年を上回った。

7. 雇用情勢

10月の有効求人倍率は、前月から0.04ポイント減の1.17倍となった。

新規求人数は8,012人で前年同月比11.3%減となった。

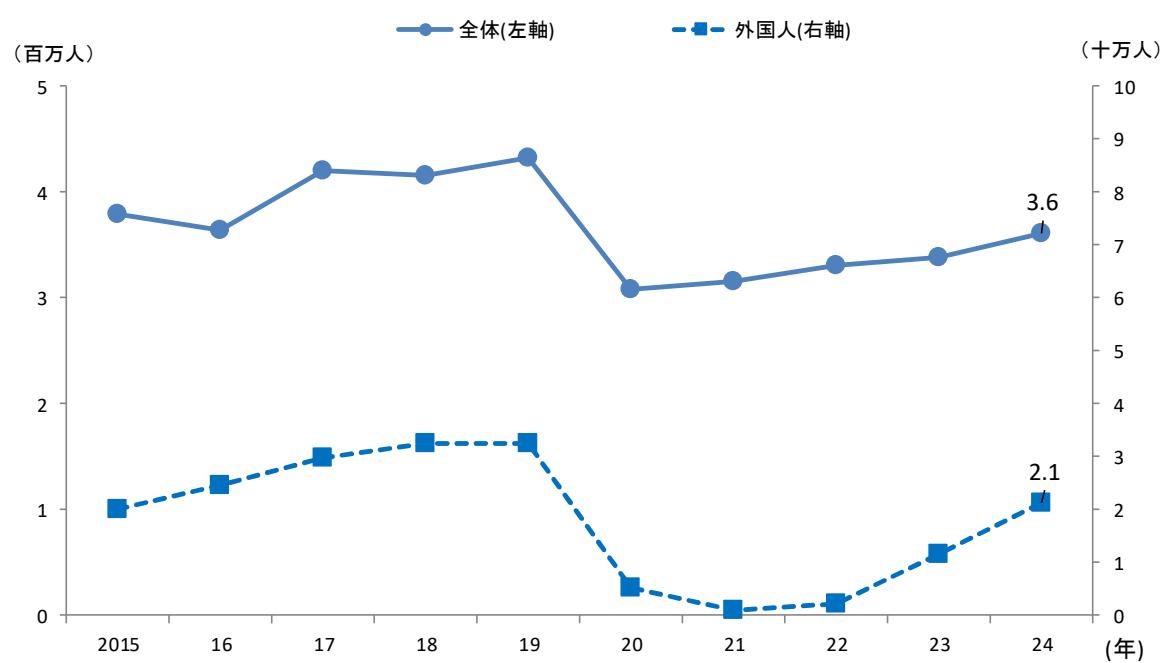
雇用保険受給者数は、5,220人で同13.8%増となった。

今月のトピックス〉～ 2024 年の延べ宿泊者数

観光庁がまとめている「宿泊旅行統計調査」によると、2024 年の延べ宿泊者数は 360 万 8,900 人で前年比 6.9% 増となった。うち、外国人延べ宿泊者数は 21 万 3,080 人で同 83.0% 増となった。

全体の延べ宿泊者数は、コロナ前（2019 年）の 8 割強の水準まで回復している。また、外国人延べ宿泊者数は、国際定期便の増便などにより前年より大幅に増加し、コロナ前（19 年）の水準の 65% まで回復している。

宮崎県の延べ宿泊者数の推移



資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」